

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 29 年 12 月 28 日 (2017.12.28)

【公表番号】特表 2017-503403 (P2017-503403A)
 【公表日】平成 29 年 1 月 26 日 (2017.1.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2017-004
 【出願番号】特願 2016-538569 (P2016-538569)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 19/52 (2014.01)

H 0 4 N 19/597 (2014.01)

H 0 4 N 19/70 (2014.01)

【F I】

H 0 4 N 19/52

H 0 4 N 19/597

H 0 4 N 19/70

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 11 月 16 日 (2017.11.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

深度ブロックを復号する方法であって、

深度予測ユニット（深度 P U）における動きパラメータ継承（M P I）についてのサブ予測ユニット（サブ P U）のサイズを示すシンタックス要素を受信することと、ここにおいて、前記深度 P U は 1 つまたは複数のサブ P U を備え、各サブ P U は、前記シンタックス要素によって示される前記サイズに等しいサイズを有し、別個の動き情報が、各サブ P U について、前記それぞれのサブ P U にコロケートされたテクスチャブロックから継承され得る、

サブ P U M P I モードに基づく M P I マージまたはスキップ候補が動き予測に利用され得ることを示すインデックス値を受信すると、前記サブ P U の各々とコロケートされた対応するテクスチャブロックに少なくとも部分的に基づいて、前記深度ブロックの前記サブ P U の各々について動き情報を継承することと、

を備える方法。

【請求項 2】

深度ブロックを符号化する方法であって、

深度予測ユニット（深度 P U）における動きパラメータ継承（M P I）についてのサブ予測ユニット（サブ P U）のサイズを決定することと、ここにおいて、前記深度 P U は 1 つまたは複数のサブ P U を備え、各サブ P U は等しいサイズを有し、別個の動き情報が、各サブ P U について、前記それぞれのサブ P U にコロケートされたテクスチャブロックから継承され得る、

前記サブ P U の各々とコロケートされたテクスチャブロックに対応する M P I に少なくとも部分的に基づいて、前記深度ブロックの各サブ P U を符号化することと、

前記深度 P U における M P I に関する各サブ P U の前記サイズを示すシンタックス要素を生成することと、

を備える方法。

【請求項 3】

前記シンタックス要素はシーケンスパラメータセット (S P S) において受信される、
請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記深度ブロックは複数の深度 P U を含み、前記深度ブロックはアクセスユニットにおける複数の深度ブロックのうちの 1 つであり、前記シンタックス要素は、前記アクセスユニットにおける各それぞれの深度ブロックにおいて各深度 P U の各サブ P U についての M P I サイズをさらに示す、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記サブ P U の各々とコロケートされた対応するテクスチャブロックに少なくとも部分的に基づいて、各サブ P U について動き情報を継承することは、

前記深度 P U が深度 P U の第 1 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 1 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の値との合計の 2 乗よりも小さいサイズを有する、

前記サブ P U の各々とコロケートされた対応するテクスチャブロックに少なくとも部分的に基づいて、前記深度 P U における各サブ P U について動き情報を継承することと、
を備える、請求項 1 に従属するときの請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記サブ P U の各々とコロケートされたテクスチャブロックに対応する M P I に少なくとも部分的に基づいて、前記サブ P U を符号化することは、

前記深度 P U が深度 P U の第 1 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 1 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の値との合計の 2 乗よりも小さいサイズを有する、

前記サブ P U の各々とコロケートされたテクスチャブロックに対応する M P I に少なくとも部分的に基づいて、前記深度 P U における各サブ P U を符号化することと、
を備える、請求項 2 に従属するときの請求項 4 に記載の方法。

【請求項 7】

前記深度 P U は第 1 の深度 P U であり、前記方法は、

第 2 の深度 P U が深度 P U の第 2 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 2 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の前記値との前記合計の 2 乗よりも大きいまたはそれに等しいサイズを有する、

それぞれ、前記 M P I サイズに基づかずに、前記第 2 の深度 P U の各サブ P U について M P I を継承すること、または、前記 M P I サイズに基づかずに、M P I を使用して前記第 2 の深度 P U の各サブ P U を符号化することと、

をさらに備える、請求項 5 または請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記シンタックス要素の値は、1 よりも大きいまたはそれに等しく、前記方法は、

アクセスユニットにおける各テクスチャブロックをそれぞれ復号または符号化することと、ここにおいて、前記アクセスユニットは前記深度ブロックを含む、

各テクスチャブロック上の 16×16 ブロックに対して動き圧縮を実施することと、
をさらに備える、請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 9】

前記アクセスユニットにおける各テクスチャブロックは、前記アクセスユニットにおける対応するコロケートされた深度ブロックに対して、独立してコーディングされ、各テクスチャブロックは、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックのうちのいずれを復号するよりも前に復号され、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックの各々を復号した後、動き圧縮が実施される、請求項 1 に従属するときの請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

前記シンタックス要素は、両端値を含む 0 ~ 3 の範囲を有し、

前記シンタックス要素の値が 0 であるとき、前記方法は、
前記 M P I サイズが 8×8 であると決定することをさらに備える、
請求項 1 または請求項 2 に記載の方法。

【請求項 1 1】

前記コロケートされたテクスチャブロックが 2 つの P U を含むかどうかを決定することと、

前記コロケートされたテクスチャブロックが 2 つの P U を含むと決定することに応答して、

前記コロケートされたテクスチャブロックにおける各 P U のサイズが 4×8 または 8×4 であるかどうかを決定することと、

各パーティションのサイズが、前記コロケートされたテクスチャブロックにおける各 P U の前記サイズに等しくなるように、前記サブ P U を 2 つのより小さいユニットにパーティション分割することと、

前記 2 つのより小さいユニットの各々に対して単方向動き補償を適用することと、
をさらに備える、請求項 1 0 に記載の方法。

【請求項 1 2】

前記サブ P U を復号することは、R e f P i c L i s t 0 に対応する 2 つの動きベクトルを継承することを備える、請求項 1 1 に記載の方法。

【請求項 1 3】

深度ブロックを復号するためのデバイスであって、

前記深度ブロックと関連付けられたデータを記憶するように構成されたメモリと、
1 つまたは複数のプロセッサであって、

深度予測ユニット（深度 P U ）における動きパラメータ継承（M P I ）についてのサブ予測ユニット（サブ P U ）のサイズを示すシンタックス要素を受信することと、ここにおいて、前記深度 P U は 1 つまたは複数のサブ P U を備え、各サブ P U は、前記シンタックス要素によって示される前記サイズに等しいサイズを有し、別個の動き情報が、各サブ P U について、前記それぞれのサブ P U にコロケートされたテクスチャブロックから継承され得る、

サブ P U M P I モードに基づく M P I マージまたはスキップ候補が動き予測に利用され得ることを示すインデックス値を受信すると、前記サブ P U の各々とコロケートされた対応するテクスチャブロックに少なくとも部分的に基づいて、前記深度ブロックの前記サブ P U の各々について動き情報を継承することと、

を行うように構成された 1 つまたは複数のプロセッサと、
を備えるデバイス。

【請求項 1 4】

深度ブロックを符号化するためのデバイスであって、

前記深度ブロックと関連付けられたデータを記憶するように構成されたメモリと、
1 つまたは複数のプロセッサであって、

深度予測ユニット（深度 P U ）における動きパラメータ継承（M P I ）についてのサブ予測ユニット（サブ P U ）のサイズを決定することと、ここにおいて、前記深度 P U は 1 つまたは複数のサブ P U を備え、各サブ P U は等しいサイズを有し、別個の動き情報が、各サブ P U について、前記それぞれのサブ P U にコロケートされたテクスチャブロックから継承され得る、

前記サブ P U の各々とコロケートされたテクスチャブロックに対応する M P I に少なくとも部分的に基づいて、前記深度ブロックの各サブ P U を符号化することと、

前記深度 P U における M P I に関する各サブ P U の前記サイズを示すシンタックス要素を生成することと、

を行うように構成された 1 つまたは複数のプロセッサと、
を備えるデバイス。

【請求項 1 5】

処理ユニットによって実行されると、請求項 1 ～ 請求項 13 のいずれか一項に記載の方法を実行する命令を記憶するコンピュータ可読記憶媒体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0158

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0158】

[0168]本開示の様々な例について説明した。説明したシステム、動作、または機能の任意の組合せが企図される。これらおよび他の例は、以下の特許請求の範囲の範囲内に入る。

以下に本願の出願当初の特許請求の範囲に記載された発明を付記する。

【C 1】 深度ブロックを復号する方法であって、

深度予測ユニット（深度 P U）における動きパラメータ継承（M P I）についてのサブ予測ユニット（サブ P U）のサイズを示すシンタックス要素を受信することと、ここにおいて、前記深度 P U は 1 つまたは複数のサブ P U を備え、各サブ P U は、前記シンタックス要素によって示される前記サイズに等しいサイズを有し、別個の動き情報が、各サブ P U について、前記それぞれのサブ P U にコロケートされたテクスチャブロックから継承され得る、

サブ P U M P I モードを示すインデックス値を受信すると、前記サブ P U の各々とコロケートされた対応するテクスチャブロックに少なくとも部分的に基づいて、前記深度ブロックの前記サブ P U の各々について M P I を継承することと、

を備える方法。

【C 2】 前記シンタックス要素はシーケンスパラメータセット（S P S）において受信される、C 1 に記載の方法。

【C 3】 前記深度ブロックは複数の深度 P U を含み、前記深度ブロックはアクセスユニットにおける複数の深度ブロックのうちの 1 つであり、前記シンタックス要素は、前記アクセスユニットにおける各それぞれの深度ブロックにおいて各深度 P U の各サブ P U についての M P I サイズをさらに示す、C 2 に記載の方法。

【C 4】 前記サブ P U の各々とコロケートされた対応するテクスチャブロックに少なくとも部分的に基づいて、各サブ P U について M P I を継承することは、

前記深度 P U が深度 P U の第 1 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 1 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の値との合計の 2 乗よりも小さいサイズを有する、

前記サブ P U の各々とコロケートされた対応するテクスチャブロックに少なくとも部分的に基づいて、前記深度 P U における各サブ P U について M P I を継承することと、

を備える、C 3 に記載の方法。

【C 5】 前記深度 P U は第 1 の深度 P U であり、前記方法は、

第 2 の深度 P U が深度 P U の第 2 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 2 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の前記値との前記合計の 2 乗よりも大きいかまたはそれに等しいサイズを有する、

前記 M P I サイズに基づかずに、前記第 2 の深度 P U の各サブ P U について M P I を継承することと、

をさらに備える、C 4 に記載の方法。

【C 6】 前記シンタックス要素の値は、1 よりも大きいかまたはそれに等しく、前記方法は、

アクセスユニットにおける各テクスチャブロックを復号することと、ここにおいて、前記アクセスユニットは前記深度ブロックを含む、

各テクスチャブロック上の 16 × 16 ブロックに対して動き圧縮を実施することと、

をさらに備える、C 1 に記載の方法。

[C 7] 前記アクセスユニットにおける各テキストチャブロックは、前記アクセスユニットにおける対応するコロケートされた深度ブロックに対して、独立してコーディングされ、各テキストチャブロックは、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックのうちのいずれを復号するよりも前に復号され、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックの各々を復号した後、動き圧縮が実施される、C 6 に記載の方法。

[C 8] 前記シンタックス要素の値は 0 であり、前記方法は、

前記 M P I サイズが 8×8 であると決定することをさらに備える、

C 1 に記載の方法。

[C 9] 前記コロケートされたテキストチャブロックが 2 つの P U を含むかどうかを決定することと、

前記コロケートされたテキストチャブロックが 2 つの P U を含むと決定することに応答して、

前記コロケートされたテキストチャブロックにおける各 P U のサイズが 4×8 または 8×4 であるかどうかを決定することと、

各パーティションのサイズが、前記コロケートされたテキストチャブロックにおける各 P U の前記サイズに等しくなるように、前記サブ P U を 2 つのより小さいユニットにパーティション分割することと、

前記 2 つのより小さいユニットの各々に対して単方向動き補償を適用することと、

をさらに備える、C 8 に記載の方法。

[C 10] 前記サブ P U を復号することは、R e f P i c L i s t 0 に対応する 2 つの動きベクトルを継承することを備える、C 9 に記載の方法。

[C 11] 前記シンタックス要素は、両端値を含む 0 ~ 3 の範囲を有する、C 1 に記載の方法。

[C 12] 深度ブロックを復号するためのデバイスであって、

前記深度ブロックと関連付けられたデータを記憶するように構成されたメモリと、

1 つまたは複数のプロセッサであって、

深度予測ユニット（深度 P U）における動きパラメータ継承（M P I）についてのサブ予測ユニット（サブ P U）のサイズを示すシンタックス要素を受信することと、ここにおいて、前記深度 P U は 1 つまたは複数のサブ P U を備え、各サブ P U は、前記シンタックス要素によって示される前記サイズに等しいサイズを有し、別個の動き情報が、各サブ P U について、前記それぞれのサブ P U にコロケートされたテキストチャブロックから継承され得る、

サブ P U M P I モードを示すインデックス値を受信すると、前記サブ P U の各々とコロケートされた対応するテキストチャブロックに少なくとも部分的に基づいて、前記深度ブロックの前記サブ P U の各々について M P I を継承することと

を行うように構成された 1 つまたは複数のプロセッサと、

を備えるデバイス。

[C 13] 前記シンタックス要素はシーケンスパラメータセット（S P S）において受信され、

前記深度ブロックは複数の深度 P U を含み、

前記深度ブロックは、アクセスユニットにおける複数の深度ブロックのうちの 1 つであり、

前記シンタックス要素は、前記アクセスユニットにおける各それぞれの深度ブロックにおいて各深度 P U の各サブ P U に関する M P I サイズをさらに示し、

前記深度 P U は第 1 の深度 P U であり、

前記 M P I サイズに少なくとも部分的に基づいて前記サブ P U を復号するように構成された前記 1 つまたは複数のプロセッサは、

前記第 1 の深度 P U が深度 P U の第 1 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 1 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、

3 と前記シンタックス要素の値との合計の 2 乗よりも小さいサイズを有する、

前記 M P I サイズに少なくとも部分的に基づいて、前記第 1 の深度 P U における各サブ P U を復号することと、

を行うように構成された 1 つまたは複数のプロセッサを備え、

ここにおいて、前記 1 つまたは複数のプロセッサは、

第 2 の深度 P U が深度 P U の第 2 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 2 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の前記値との前記合計の 2 乗よりも大きいまたはそれに等しいサイズを有する、

前記 M P I サイズに基づかずに、M P I を使用して前記第 2 の深度 P U の各サブ P U を復号することと、

を行うようにさらに構成される、C 1 2 に記載のデバイス。

[C 1 4] 前記シンタックス要素の値は、1 よりも大きいまたはそれに等しく、前記 1 つまたは複数のプロセッサは、

アクセスユニットにおける各テクスチャブロックを復号することと、ここにおいて、前記アクセスユニットは前記深度ブロックを含む、

各テクスチャブロック上の 16×16 ブロックに対して動き圧縮を実施することと、

を行うようにさらに構成される、C 1 2 に記載のデバイス。

[C 1 5] 前記アクセスユニットにおける各テクスチャブロックは、前記アクセスユニットにおける対応するコロケートされた深度ブロックに対して、独立してコーディングされ、各テクスチャブロックは、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックのうちのいずれを復号するよりも前に復号され、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックの各々を復号した後、動き圧縮が実施される、C 1 4 に記載のデバイス。

[C 1 6] 深度ブロックを符号化する方法であって、

深度予測ユニット (深度 P U) における動きパラメータ継承 (M P I) についてのサブ予測ユニット (サブ P U) のサイズを決定することと、ここにおいて、前記深度 P U は 1 つまたは複数のサブ P U を備え、各サブ P U は等しいサイズを有し、別個の動き情報が、前記それぞれのサブ P U にコロケートされたテクスチャブロックから、各サブ P U について継承され得る、

前記サブ P U の各々とコロケートされたテクスチャブロックに対応する M P I に少なくとも部分的に基づいて、前記深度ブロックの各サブ P U を符号化することと、

前記深度 P U における M P I に関する各サブ P U の前記サイズを示すシンタックス要素を生成することと、

を備える方法。

[C 1 7] 前記シンタックス要素はシーケンスパラメータセット (S P S) において生成される、C 1 6 に記載の方法。

[C 1 8] 前記深度ブロックは複数の深度 P U を含み、前記深度ブロックはアクセスユニットにおける複数の深度ブロックのうちの 1 つであり、前記シンタックス要素は、前記アクセスユニットにおける各それぞれの深度ブロックにおいて各深度 P U の各サブ P U についての M P I サイズをさらに示す、C 1 7 に記載の方法。

[C 1 9] 前記サブ P U の各々とコロケートされたテクスチャブロックに対応する M P I に少なくとも部分的に基づいて前記サブ P U を符号化することは、

前記深度 P U が深度 P U の第 1 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 1 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の値との合計の 2 乗よりも小さいサイズを有する、

前記サブ P U の各々とコロケートされたテクスチャブロックに対応する M P I に少なくとも部分的に基づいて、前記深度 P U における各サブ P U を符号化することと、

を備える、C 1 8 に記載の方法。

[C 2 0] 前記深度 P U は第 1 の深度 P U であり、前記方法は、

第 2 の深度 P U が深度 P U の第 2 のセットにあると決定することと、ここにおいて、

深度 P U の前記第 2 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の前記値との前記合計の 2 乗よりも大きいかまたはそれに等しいサイズを有する、

前記 M P I サイズに基づかずに、M P I を使用して前記第 2 の深度 P U の各サブ P U を符号化することと、

をさらに備える、C 1 9 に記載の方法。

[C 2 1] 前記シンタックス要素の値は、1 よりも大きいまたはそれに等しく、前記方法は、

アクセスユニットにおける各テクスチャブロックを符号化することと、ここにおいて、前記アクセスユニットは前記深度ブロックを含む、

各テクスチャブロック上の 16×16 ブロックに対して動き圧縮を実施することと、
をさらに備える、C 1 6 に記載の方法。

[C 2 2] 前記アクセスユニットにおける各テクスチャブロックは、前記アクセスユニットにおける対応するコロケートされた深度ブロックに対して、独立してコーディングされ、各テクスチャブロックは、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックのうちのいずれを符号化するよりも前に符号化され、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックの各々を符号化する前に、動き圧縮が実施される、C 2 1 に記載の方法。

[C 2 3] 前記シンタックス要素の値は 0 であり、前記方法は、

前記 M P I サイズが 8×8 であると決定することをさらに備える、C 1 6 に記載の方法。

[C 2 4] 前記コロケートされたテクスチャブロックが 2 つの P U を含むかどうかを決定することと、

前記コロケートされたテクスチャブロックが 2 つの P U を含むと決定することに応答して、

前記コロケートされたテクスチャブロックにおける各 P U のサイズは 4×8 または 8×4 であるかどうかを決定することと、

各パーティションのサイズが、前記コロケートされたテクスチャブロックにおける各 P U の前記サイズに等しくなるように、前記サブ P U を 2 つのより小さいユニットにパーティション分割することと、

前記 2 つのより小さいユニットの各々に対して単方向動き補償を適用することと、
をさらに備える、C 2 3 に記載の方法。

[C 2 5] 前記サブ P U を符号化することは、R e f P i c L i s t 0 に対応する 2 つの動きベクトルを継承することを備える、C 2 4 に記載の方法。

[C 2 6] 前記シンタックス要素は、両端値を含む 0 ~ 3 の範囲を有する、C 1 6 に記載の方法。

[C 2 7] 深度ブロックを符号化するためのデバイスであって、

前記深度ブロックと関連付けられたデータを記憶するように構成されたメモリと、
1 つまたは複数のプロセッサであって、

深度予測ユニット（深度 P U ）における動きパラメータ継承（M P I ）についてのサブ予測ユニット（サブ P U ）のサイズを決定することと、ここにおいて、前記深度 P U は 1 つまたは複数のサブ P U を備え、各サブ P U は等しいサイズを有し、別個の動き情報が、前記それぞれのサブ P U にコロケートされたテクスチャブロックから、各サブ P U について継承され得る、

前記サブ P U の各々とコロケートされたテクスチャブロックに対応する M P I に少なくとも部分的に基づいて、前記深度ブロックの各サブ P U を符号化することと、

前記深度 P U における M P I に関する各サブ P U の前記サイズを示すシンタックス要素を生成することと

を行うように構成された 1 つまたは複数のプロセッサと、
を備えるデバイス。

[C 2 8] 前記シンタックス要素はシーケンスパラメータセット（S P S ）において生成

され、

前記深度ブロックは複数の深度 P U を含み、

前記深度ブロックは、アクセスユニットにおける複数の深度ブロックのうちの 1 つであり、

前記シンタックス要素は、前記アクセスユニットにおける各それぞれの深度ブロックにおいて各深度 P U の各サブ P U に関する M P I サイズをさらに示し、

前記深度 P U は第 1 の深度 P U であり、

前記 M P I サイズに少なくとも部分的に基づいて前記サブ P U を符号化するように構成された前記 1 つまたは複数のプロセッサは、

前記第 1 の深度 P U が深度 P U の第 1 のセットにあると決定することと、深度 P U の前記第 1 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の値との合計の 2 乗よりも小さいサイズを有する、

前記 M P I サイズに少なくとも部分的に基づいて、前記第 1 の深度 P U における各サブ P U を符号化することと、

を行うように構成された 1 つまたは複数のプロセッサを備え、

ここにおいて、前記 1 つまたは複数のプロセッサは、

第 2 の深度 P U が深度 P U の第 2 のセットにあると決定することと、ここにおいて、深度 P U の前記第 2 のセットにおける各深度 P U は、1 のビット単位左シフトの後、3 と前記シンタックス要素の前記値との前記合計の 2 乗よりも大きいまたはそれに等しいサイズを有する、

前記 M P I サイズに基づかずに、M P I を使用して前記第 2 の深度 P U の各サブ P U を符号化することと、

を行うようにさらに構成される、C 2 7 に記載のデバイス。

[C 2 9] 前記シンタックス要素の値は、1 よりも大きいまたはそれに等しく、前記 1 つまたは複数のプロセッサは、

アクセスユニットにおける各テクスチャブロックを符号化することと、ここにおいて、前記アクセスユニットは前記深度ブロックを含む、

各テクスチャブロック上の 1 6 × 1 6 ブロックに対して動き圧縮を実施することと、
を行うようにさらに構成される、C 2 7 に記載のデバイス。

[C 3 0] 前記アクセスユニットにおける各テクスチャブロックは、前記アクセスユニットにおける対応するコロケートされた深度ブロックに対して、独立してコーディングされ、各テクスチャブロックは、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックのうちのいずれを符号化するよりも前に符号化され、前記アクセスユニットにおける前記深度ブロックの各々を符号化する前に、動き圧縮が実施される、C 2 9 に記載のデバイス。